

## 2026 年度 群馬県看護協会 医療安全管理者養成研修プログラム

研修目的	所属施設及び地域で医療安全管理業務を実践できる
研修目標	<p>①安全管理業務を遂行するために必要な以下に関する知識・技術を習得する 医療安全の基礎知識／安全管理体制の構築／医療安全についての職員研修の企画・運営／医療安全に資する情報収集と分析、対策立案、フィードバック、評価／医療事故発生時の対応／安全文化の醸成</p> <p>②演習を通して実践方法がわかる</p>
【演習目的】	<p>集合演習により以下 1～3 に沿った実践的な学びを深める</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療機関内において、医療事故事例やヒヤリ・ハット事例の報告と共有を効果的にするための体制の整備</li> <li>2. 医療事故の発生予防や再発防止を効果的にする体制の確立</li> <li>3. 発生予防や再発防止を目的とするため、医療事故やヒヤリ・ハットの 報告者を非難しない組織文化の醸成</li> </ol>

### 【日本看護協会提供のオンデマンド講義】 1 章～5 章 (35 時間)

章	単元／主な内容	時間
	1 章 医療安全の基礎知識	
	我が国の医療安全施策の動向と医療安全管理に関する法令や制度、指針等 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 我が国の医療安全施策と医療安全確保の仕組み</li> <li>2. 医療安全確保の仕組みを動かす体制</li> <li>3. 医療安全管理に関する法令や制度</li> <li>4. 医療安全管理に関する指針等</li> </ol>	90 分
	地域における連携 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域の医療機関の連携</li> <li>2. 診療報酬算定項目「医療安全対策地域連携加算」について</li> </ol>	30 分
1	医療の質向上と評価 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療の質の評価</li> <li>2. 医療の質向上のための取り組み例</li> <li>3. 医療の質と安全確保</li> </ol>	60 分
	医療事故発生の機序とヒューマンエラー <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ヒューマンファクター、ヒューマンエラーについて</li> <li>2. 医療事故発生の機序</li> <li>3. 心理学・人間工学からみた医療安全（疲労ヒューマンエラー、権威勾配など）</li> <li>4. ヒューマンエラーを防ぐためには</li> </ol>	150 分

	2章 安全管理体制の構築	
2	職種横断的な組織作り	
	1. 組織運営に関する基本的知識 ・組織とは何か ・組織文化 ・組織マネジメント	90 分
	2. チーム医療に関する基本的知識・他職員と役割分担や協働に関する知識 ・テクニカルスキルとノンテクニカルスキル ・院内各部署との連携 ・医療機器安全管理者、医薬品安全管理者との連携	90 分
	3. 会議運営の技術や適切なコミュニケーションの推進に関する知識 ・医療対話推進者	90 分
	医療安全管理に関する組織的活動の評価と調整	60 分
	院内の医療安全管理体制の整備	
	1. 医療安全管理部門や委員会の業務 2. 医療安全管理者の役割と業務 3. 医療安全管理部門と他部門との連携	90 分
	3章 医療安全についての職員研修の企画・運営	
3	研修の企画、運営、評価	
	1. 研修受講者の背景、事前の知識、学習意欲等の把握の仕方 2. 研修の企画に関する知識(時期の選定、講師や対象者の選定、内容と到達度の設定、方法の選定、年間計画の立案)	180 分
	3. 医療安全のための教育教材とその活用方法 4. アンケート等による参加者の感想やテキスト分析など、研修評価の方法 5. 研修計画全体の評価	
	研修企画書の作成 ・講義と個人ワークを含む	90 分
	4章 医療安全に資する情報収集と分析、対策立案、フィードバック、評価	
	医療事故報告、ヒヤリ・ハット報告制度および院内報告制度	
4	1. 医療事故、インシデントとは 2. 報告制度の目的	30 分
	医療安全に資する院内外の情報を収集する方法	
	1. 医療機関内の報告制度 ・安全文化と報告制度 ・医療機関内の情報収集と報告の仕組み ・院内で報告を推進するための方策 ・収集した情報や報告内容の活用 ・各部門及び部署への還元	120 分

	2. 医療機関外の報告制度とその活用 3. 医療機関外の患者安全情報の例 4. 情報の抽出と周知方法	60 分
	リスクの確認方法 1. 結果の重大性や発生頻度からみた事象の重大性やその対応の緊急性についての分類の方法等 2. 医療事故発生予防のための方法 3. 危険を発見するための能力開発方法	60 分
4	事例の分析方法 1. 定性的分析の基本 2. 定量的分析の基本 ・有害事象(事故)分析 ・m-SHELL モデル ・4M4E モデル ・特性要因図	120 分
	未然防止・再発防止対策の立案と評価 1. 安全対策立案の基本 2. すでに検討あるいは確立されている安全対策例 3. 安全対策や再発防止策等についてのフィードバック、周知の方策	90 分
	対策評価のための知識、技術、方法	60 分
	事象の分析と対策立案の実際 ・講義と個人ワークを含む	120 分
5章 医療事故発生時の対応		
	医療事故発生時の対応 1. 医療事故発生時の対応に関する基本原則 2. 医療事故発生時の対応の実際	60 分
	医療事故発生時の初動対応に必要な知識	90 分
5	医療事故に関与した職員の事故発生後の精神的支援等に必要な知識 1. 医療事故に関与した職員の事故発生後の精神的支援等の必要性と方法 2. 医療事故に関与した職員を擁護し、サポートするための組織的対応	60 分
	医療事故調査制度事案の対応	120 分
	1. 医療事故調査制度の概要 2. 医療事故調査制度における対応の実際	120 分

【集合研修】 6章 (5時間)

章	単元/主な内容	形式	時間
6	安全文化の醸成 1. 安全文化と4つの下位文化 2. 安全文化の醸成に向けた活動  <b>【演習のポイント】</b> ・病院の状況(組織文化など)や医療事故発生の状況設定事例に基づき 行う <b>【演習の実際】</b> *演習支援者を3名程度依頼する ①演習の導入 (20分程度) ②グループワークを行う(90分程度) ・状況設定をもとに医療安全の体制整備や組織文化の醸成の方法を検討する ・受講者は医療安全管理者という設定とし、これまでのすべての講義の知識・技術を統合して、解決方法や自身の行動を考えられるようする ③全体発表 ・グループ討議の結果を発表し、質疑応答等を交えて全体で共有する ・医療安全管理者として安全文化醸成のための行動のポイント(模範解答)を学ぶ ④まとめ	講義 演習	60分 180分
	患者・家族の医療への参加 1. 患者、家族の医療への参加方法 2. 遺族の立場で考える医療安全	講義	60分